

◆特集◆能代市の教育連携

能代市は平成25年の東京都豊島区との教育連携協定締結以降、生徒・教職員等の情報交換・交流・訪問等を通じて、児童生徒の学力向上へ向けた双方のすぐれた取り組みを学び合っています。

29年度の取り組みの中から、生徒交流事業の一部を紹介します。

能代市から豊島区へ

29年7月31日から8月2日、能代市の中学生14名（全7校2名ずつ）と引率者4名が豊島区を訪問し、池袋防災館で地震・消火等の体験を行いました。また、豊島区新庁舎や豊島の森を見学し、豊島区立池袋中学校への訪問では、挨拶運動や生徒会新聞、意見箱の取り組みなどが紹介され、お互いの発表やグループ討議を行いました。立教大学の留学生や豊島区の中学生とイングリッシュキャンプへ参加し、学校の授業とは異なった学びを体験しました。そのほか、国の有形重要文化財の鬼子母神堂の見学・講話など、都会ならではの活動や長い歴史と伝統に触れながら見聞を広げ、生徒会活動について生徒同士で語り合いました。

参加した生徒からは、豊島区の中学生との交流を通じ、改めてふるさと能代のよさや誇りを感じたこと、また、得た学びと自信を今後の中学校生活やふるさと能代のために生かしたいとの感想がありました。

豊島区から能代市へ

29年11月3日から5日、豊島区の中学生16名が来能、農家に民泊し“いなか”を体験しました。今回は二ツ井地区・外荒巻地区・檜山地区の合計6軒の農家が受け入れに協力してくださいました。ここでは、マコモダケ収穫などの農作業や、きりたんぼ・だまこもちなどの郷土料理づくりを体験し、味わいました。そのほか、能代工業高校バスケット部の練習やバスケットミュージウムを見学したほか、組子コースターの製作体験、風の松原の散策、火力発電所の見学やまち歩きなどを通じ、能代市の中学生との交流を楽しみました。



池袋での生徒会交流会



能代でのきりたんぼづくり体験

豊島区との教育連携は「教育」をテーマとした自治体間の連携として全国の先進事例となつていきます。教育連携の成果は、今後も各教員、各小・中学校において共有され、より質の高い教育活動の展開へとつながっていくことが期待されています。また能代市は、豊島区のほか、茨城県坂東市、長野県箕輪町と教育交流をしています。

なお、表紙のマコモダケは、マコモと呼ばれるイネ科の植物で、食感は大ネコに似ています。檜山地区では栽培を始めて3年目であり、無農薬で栽培しています。収穫時期は例年10月初旬から11月初旬と短く、生産量はまだまだ少ないため、市内では知らない人も多い現状ですが、各種ビタミン、食物繊維、カリウム等が含まれ、便秘の解消、デトックス効果、生活習慣病の予防に役立つとされています。

取材：落合範良 渡邊正人

東京都豊島区との教育連携協定（平成25年1月19日締結）より抜粋

豊島区と能代市は、児童・生徒の学力向上へ向けた取組で互いのよさを共有し、今後、一層、教育の質の向上に資するため、両都市間の交流から生まれる豊かな実りを次の世代に引き継いでいきたいと願っています。